

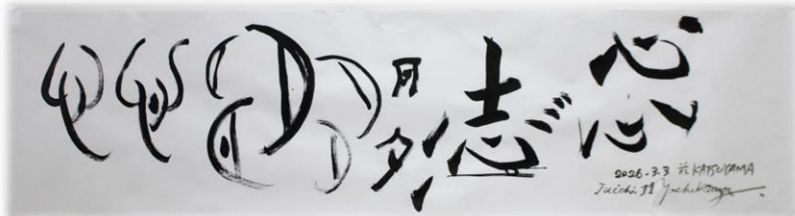
2025～26年度 RI第2650地区

創立 昭和36年6月28日  
承認 昭和36年8月 3日

勝山ロータリークラブ週報

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30  
例会場 勝山市市民交流センター  
〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地  
TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760  
URL : <https://rid2650.gr.jp/club-katsuyama>  
Email:katsuyamarc@gmail.com

■会長 滝川 博則 ■幹事 辻 利津子  
編集発行・文責 公共イメージ委員会



会長メッセージ ～ 縁（えにし）を継なく ～

第3115回 例会 (3月3日)

●会長スピーチ

会長 滝川 博則



皆さん、こんにちは。今月は国際ロータリーの「水と衛生月間」です。今日は皆さまにペットボトルの水を一本お配りしました。実はこの水、軟水と硬水の2種類があります。日本の水の多くは軟水ですが、世界にはミネラルを多く含む硬水の地域も多く、水にも地域ごとの違いがあります。

今日はこのペットボトルの水をテーマに、二つの話をさせていただきます。

まず一つ目は、ペットボトルの歴史です。ペットボトルは1973年、アメリカの技術者ナサニエル・ワイエスによって開発されました。軽くて割れないため、世界中で飲料の容器として広がりました。

二つ目は、日本人が水を買って飲むようになったきっかけです。

昔、日本では水は買うものではありませんでした。蛇口をひねれば飲める水があったからです。

しかし1990年代、海外のミネラルウォーターが広まり、水を持ち歩く習慣が少しずつ生まれました。

さらに1995年の阪神・淡路大震災で断水を経験したことで、水の大切さが改めて認識されました。

それ以降、日本でもペットボトルの水が日常的なものになりました。

私たちは今、安全な水を当たり前のように飲んでいきます。しかし世界には、安全な水や衛生環境がまだ十分に整っていない地域もあります。だからこそロータリーは「水と衛生」を重要な活動として取り組んでいます。

今日お配りしたこの一本の水。普段はあまり意識しない水ですが、この機会に水のありがたさと衛生の大切さを少し思い出していただければと思います。

●幹事報告

幹事 辻 利津子

○危機管理セミナーのご案内 ガバナー事務所  
4月26日(日) 13:30～15:00 ZOOMミーティング  
○ロータリー希望の風奨学金プロジェクトが3月13日  
NHK「おはよう日本」にて紹介さる予定

◆到着物

○かつやまっ子応援ニュース 青少年勝山市民会議

●出席報告

山内 智子

3月3日 欠席6名 70%  
2月24日 欠席4名 80%

●ニコニコ報告

笠松 誠一

卓話をさせていただきます 吉川 壽一様  
メイクアップ 福井西RC 藤野拓三様  
会員誕生 梅田秀司・滝川博則  
結婚記念 山内政司・上山弥一・山内智子  
伴侶誕生 多田慶一郎・久保光子



ゲスト卓話

国際交流と「心」の書法

SYOING ARTIST 吉川 壽一 氏



勝山との深い縁と「パワハラ」時代？

皆さん、こんにちは。書家の吉川です。実は私、ここ勝山には並々ならぬご縁があります。まず、家内が勝山の出身です。それから、かつて勝山高校や精華高校で長く教鞭を執られていた稲村先生とも、中学校時代からのお付き合いでした。

私自身も、勝山で10年ほど書道を教えていた時期がありました。今なら「パワハラだ！」と訴えられてしまうかもしれませんが(笑) 当時はそれはもう厳しく、時には手が出るほどの熱血指導でした。

でも、そうしてぶつかり合った教え子たちが、今では立派に上達してくれている。そんな懐かしい思い出が、この勝山の地にはたくさん詰まっています。

本日 プログラム	ゲスト卓話 シルバー人材センター 四谷 昌則 氏	3月17日 プログラム	ゲスト卓話 (株)パシオン 前田 千聡 氏	3月24日 プログラム	ゲスト卓話 日本生命福井支社 山崎 研児 氏	4月5日 プログラム	地区大会
-------------	--------------------------------	----------------	-----------------------------	----------------	------------------------------	---------------	------

### 世界を駆ける書：UAEの大統領や王弟妃との交流

さて、私の活動は今、日本を飛び出して中東のUAE（アラブ首長国連邦）など国際的な舞台へと広がっています。これまで15回から20回ほど足を運んでいます、そこでの体験は驚きの連続です。

例えば、UAEの大統領とのご縁。本当は直近の来日時に大きな作品を書き上げる計画もあったのですが、ウクライナ情勢などの公務で多忙を極め、再来日の折に持ち越しとなりました。

また、COP28の議長を務める大臣や、大統領の弟であるタフヌーン氏など、王族の方々とも交流があります。

特に印象深いのは、タフヌーン氏の奥様であるカウラ妃殿下との出会いです。

イスラム社会では、位の高い女性が外部の男性と直接会うことは本来あり得ないことなのですが、彼女は書道に深い造詣があり、奇跡的に「一緒に書きましょう」という話になったんです。

アラビア書道は右から左へ書きますが、日本の書道は左から右へと筆を運びます。この「東西の融合」が面白いんですね。

彼女と並んで筆を執り、茶道の精神である「和敬静寂」をテーマに作品を作りました。

彼女は一文字一文字に長い時間をかけ、心を込めて書き上げます。私が持参した越前和紙に、彼女が「平和」という文字を刻んだその瞬間の感動は、今もUAEの地に大切に残されています。

### 著名人との「心」の真剣勝負

国内でも、さまざまな分野の方々とは「書」を通じて向き合ってきました。

例えば、EXILEのTAKAHIROさん。彼は書道八段という確かな腕前の持ち主ですが、私の前で「開」という字を書きたいと言ってくれました。

日本の書道界の段位システムにはいろいろ思うところもありますが、彼の筆運びを見た瞬間、「あ、この人は筆に馴染んでいるな」とすぐに分かりました。

私が大きな筆でゆっくりと手本を示すと、彼はそれをじっと見つめ、見事に自分のものにして書き上げました。

その姿には、リーダーのHIROさんも大変喜んでくれましたね。

また、野球界のレジェンド、長嶋茂雄さんとの出会いも忘れられません。

私が「勝」という字を書いたとき、長嶋さんは最初立って見ておられたのですが、最後の一画を「うわっ」と書き上げた瞬間、パッと正座をされたんです。あの独特のオーラ、そして「うまくいったね」という一言。魂と魂が触れ合ったような気がしました。

GACKTさんとも、彼自身のこだわりを尊重しながら、右腕となって一緒に作品を作り上げたことがあります。

皇室では、高円宮久子様とも何度もお会いしています。ホテルの29階で、鮮やかなブルーの背景に「冒険」、そして赤と白を混ぜたピンク色で「心」という文字を書かせていただきました。

久子さまからも「あ、うまくいったね」とお声をかけていただき、非常に光栄な時間でした。



### 3500年前からの贈り物：文字に宿る「心」の形

最後に、私が最も大切にしている「心」という文字についてお話しします。

文字というものは、今からおよそ3500年前に誕生しました。

当時の甲骨文字を見ると、すでに「心」の形が存在しています。古代の人々は、人間の体の中に何か突き動かすもの、精神力となるものがあると感じ、それを「心」という形に表したのです。

面白いのは「月」と「夕」の成り立ちです。

月は空にある月そのものですが、夕日はそれを見た時の「うわあ、すごい」という感動が込められています。古代の人にとって、夕日はそれほどまでに心を動かす特別なものだったのでしょ。

では、その「心」をどう書くか。

実は、楷書で「心」を書くのは非常に難しいんです。コツは、中心を意識すること。

一画目を書き、二画目のハネを太く力強く。そして残りの二つの点は、必ず全体の中心を意識して配置します。

この骨格さえしっかりしていれば、どんなに元気に筆を走らせても、見る人に「うまい」と感じてもらえる「心」になります。

### 結びに代えて

今日は短い時間でしたが、勝山での思い出から、UAEでの国際交流、そして書道の本質までお話しさせていただきました。

書道というのは、単に字をきれいに書く技術ではありません。言葉の成り立ちを知り、相手と向き合い、自分の「心」をどう表現するか。それがすべてだと思います。

また機会があれば、いつでもお呼びください。いくらでもお話しさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

